



西早稻田中だより

新宿区立西早稻田中学校 03(3205)9674

こどもまんなか社会

校長 塚本 桂子

令和5年の4月に「こども家庭庁」が発足しました。「こども家庭庁は、こどもがまんなかの社会を実現するために、こどもの視点に立って意見を聴き、こどもにとっていちばんの利益を考え、こどもと家庭の、福祉や健康の向上を支援し、こどもの権利を守るためのこども政策に強力なリーダーシップをもって取り組みます。」とホームページに記載があります。子どもや、子どもがいる世帯が今や日本社会の少数派であり、子どもが社会の片隅に追いやられているのでしょうか。

私が小学生の頃は、多くの子どもたちは元気よく近所の空き地などで鬼ごっこをしたりして、体が疲れるまで遊んでいました。しかし最近、子どもの声がうるさいという苦情がきっかけで、今まであった公園が廃止されるとのニュースにいささかびっくりしています。子どもがたくさんいた頃（私が幼かったとき）の方が子どもの声がうるさかったはずなのに、なんという皮肉なことでしょう。皆がもっと子どもや子どものいる世帯を大切にする必要があります。子どもは未来の日本を担う宝です。私自身、先生としてこども家庭庁の発足に大きな期待を寄せています。

こども家庭庁の発足と同時に「こども基本法」も作られました。こども基本法では、18歳や20歳といった年齢で必要なサポートがなくならないよう、心と身体の成長の段階にある人を「こども」としています。子どもや若者がそれぞれの状況に応じて社会で幸せに暮らしていけるように支えていくのです。世の中では悲しいことに、虐待やヤングケアラーなどの、子どもの権利が侵されるような事例も発生しています。そのようなことがないように、新しくなった児童福祉法では相談などのサポート体制が強化されました。学校は子どもが平等に教育を受けられるところであり、子どもが大切にされ、大事に育てられているかを見守っています。中学生は悩み多き年頃ですが、周りの大人は皆さんの味方であることを忘れないでいてほしいと思います。

1年 女神湖移動教室

5月8日(月)～10日(水)、新宿区トップバッターの日程で女神湖移動教室が実施されました。スローガン「百錬成鋼（努力や鍛錬の積み重ねで、すごい能力や精神力を発揮する）」のもと、入学してから1か月足らずの生徒たちは、元気に3日間を過ごすことができ、クラスの仲間との交友を深めることができました。

初日、東京は雨の中の出発でしたが、長野現地は晴れ。車山のハイキングを予定していましたが、気温が低すぎ、山岳ガイドの方の助言により八島湿原1周の雨天コースに変更となりました。



鹿が木の皮を食べた跡や角で表面をひっかいた跡、高山植物や八島湿原の自然などについてのガイドを聞きながら大自然の中を散策してきました。2日目、晴天の中、午前中は雪解けの冷たい水を我慢しながらの田植え体験(地域で一番早い田植えだったようです)。午後は飯盒炊爨と乳しぼり、魚のつかみ取りの体験をしてきました。班員と協力して作り上げたカレーはどの班も自分のところが一番の出来だと思ったことだと思います。牛の大きさに驚く生徒もいるなか、自分たちの食事は命をいただいていることを実感することができました。3日目は、和紙を使ったうちわ



づくり体験。色を付けた繊維で、絵を描くことに苦戦している生徒が大勢いました。この3日間で、みんなが気持ちよく生活できるよう、相手を気遣って生活することの大切さを学びましたが、時間を守ることや集団での行動については課題も残りました。今後の学校生活でより一層の成長を遂げてほしいと思います。

(1年移動教室担当)

3年 修学旅行

5月25日(木)～27日(土)の3日間、修学旅行に行ってきました。小雨が降ることもありましたが、3日間通して暑すぎず、活動するには丁度良い気候でした。

初日は現地ガイドさんのご案内のもと、奈良をクラスごとに見学しました。法隆寺、東大寺、奈良公園、興福寺国宝館。東大寺の大仏や興福寺の阿修羅像などを目の前に、生徒たちが真剣に説明を見たり聞いたり、友達と感想をささやき合ったりする姿が印象的でした。

2日目は班ごとに京都市内を巡りました。班長は班員をまとめ、班員もお互いに協力し合い、事前に調べた情報をいかし、時間を意識して行動していました。そして夜は漆器に絵を書く、漆器加色体験を行いました。作品は1月の作品展に展示する予定です。

最終日も班ごとの見学で、この日はタクシー行動でした。運転手さんが班員の希望に沿って、2日目に行っていない見学地をまわり、昼過ぎには京都駅に到着。皆、予定通りに新幹線に乗り東京駅へ。解散式を終え修学旅行の全行程が終了しました。生徒には宿泊行事の疲れがあったと思いますが、「もっと京都を見て回りたいかった」等の声が聞こえてきて名残惜しい様子も伝わってきました。

修学旅行にあたり、実行委員が中心となり、1・2年の校外学習やスキー教室で培ってきたことを各々が生かすという意味で「自立～私たちの集大成～」というスローガンに決めました。今回の宿泊行事を通して、それぞれが集団の中で自分の役割を全うし、互いに協力をしながら前に進むことを意識できていたと思います。成果を次の西早稲田祭や日々の生活で生かしていきましょう。

(3年修学旅行担当)



運動会

早い梅雨入りで天候が心配された中、6月10日(土)に第19回運動会が開催されました。実行委員が考えた「心でつなげ」のスローガンのもと、その言葉に嘘偽りなく実行委員や3年生を中心に準備期間から生徒たちがよく頑張ってくれたと思います。今年のスローガンには、「伝統をつなぐ」「仲間と心を通わ



せバトンをつなぐ」という意味合いが込められていました。「伝統をつなぐ」では、全学年での入場行進、生徒会種目のみんなでジャンプ、3年生伝統の大ムカデなど各種競技や、係生徒の仕事ぶりで実行にうつされていました。また、新たな試みとして色別での昼休みの大縄跳びの練習も行われ、上級生から下級生へアドバイスをするなど他学年

とも絆を深め、運動会当日も3年生を中心とした円陣も見られ新たな伝統の一部分を築いたように思います。

「仲間と心を通わせバトンをつなぐ」に関しては、いくつかバトンパスにおける失格はありましたが、仲間を信じて全速力で後ろを振り向かずバトンパスをする姿が多くありました。失格したら…と考えるとつい安全にゆっくり後ろを向いてバトンを受け取りたくなるとことですが、学年が上がるごとに精度の高いバトンパスを見せてくれていたと思います。また、「失敗した仲間に対して責める言動がなかった」「選手種目の後、クラス席でナイスラン!と声をかけてもらった」「クラス関係なく応援してくれた」などの話も振り返りをする中で聞かれました。クラスや色という枠をも超えて心をつなぐことができたようです。

結果は、学年優勝が1年4組(緑)、2年2組(黄色)、3年1組(赤)、色別優勝が4組(緑)となりましたが、結果以上に達成感や爽快感などが得られたのではないのでしょうか。今年度の運動会は終わりましたが、この学びを今後の生活や行事にいかし、また来年度の運動会に向けて準備を始めていきましょう。

(運動会担当)

